

研究課題名	腰方形筋ブロックの有用性の検討
研究責任者名	広島大学病院麻酔科 教授 堤 保夫
研究期間	2021年12月8日倫理委員会承認後～2025年3月31日
対象者	2021年12月から2023年12月の間に広島大学病院で手術の際に腰方形筋ブロックを受けた患者さん
意義・目的	全人工股関節置換術（THA）などの股関節の手術では、手術後の痛みが強く、施設によって医療用麻薬の点滴や各種神経ブロックなどが行われていますが、医療用麻薬による副作用の懸念や、硬膜外ブロックでは起きた状態で手技を行うなどデメリットもあります。近年当院では眠った後に痛みの神経が通る腰方形筋の前面に局所麻酔薬を注入するブロック（QLB）を行い、カテーテルを留置し、間欠的に麻酔薬を投与することで鎮痛を図っています。THA の患者で単回の QLB は疼痛スコアが低かったという報告があります（Pain Res Manag. 2020 ; 2020: 1035182.）。しかし、プログラム下に投与して効果を検討した報告はありません。本研究の目的は股関節手術での QLB の経験をもとに、術中・術後の疼痛管理法を検証することです。これにより、股関節術後の疼痛管理が向上する可能性があります。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は患者背景（年齢、性別、身長、体重、ASA 分類、病名、術式、画像所見、血液データ、生理学検査）、術中情報（手術時間、麻酔時間、麻酔方法、呼吸器設定、投与薬剤、体位、画像所見、Vital Sign、水分バランス）、術後情報（Vital Sign、水分バランス、処置の時間と内容、リハビリテーションの内容、投与薬剤、疼痛評価、合併症の有無、入院日数、転帰）などです。 （個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 麻酔科 教授 堤保夫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5267

広島大学病院 麻酔科 医科診療医 横見央

研究機関：広島大学